

# 国立国語研究所学術情報リポジトリ

表紙,目次,奥付,その他

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2019-03-25 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://repository.ninjal.ac.jp/records/1989">https://repository.ninjal.ac.jp/records/1989</a>

# 日本語科学

Japanese Linguistics

2

1997年10月

October, 1997

国立国語研究所

The National Language Research Institute

Tokyo, Japan

# 日本語科学 2

## Japanese Linguistics 2

国立国語研究所

The National Language Research Institute

1997年10月

October, 1997

---

言語の「科学」に思うこと 鈴木 孝夫

### 研究論文 Articles

安居島方言アクセントについて

Aijima dialect accent

清水 誠治 SHIMIZU Masaharu

7

Survey of standardisation in Tsuruoka, Japan: Comparison of results from three surveys conducted at 20-year intervals

鶴岡市における共通語化の調査—約20年間隔で行われた3回の調査を比較して—

米田 正人 Masato YONEDA

24

Market value of languages in Japan

日本における言語の市場価値

井上 史雄 Fumio INOUE

40

温度を表す形容詞の意味体系—《物》と《場所》の対立—

The semantic system of Japanese temperature adjectives: Contrast between “object” and “place”

久島 茂 KUSHIMA Shigeru

62

買物における挨拶行動の地域差と世代差

Regional and generational differences in the greeting behavior of shopping

篠崎 晃一 SHINOZAKI Koichi

小林 隆 KOBAYASHI Takashi

81

## 調査報告 Report

### 雑誌三種の表紙における文字使用の変化

Test survey about changes in use of letters on magazines covers:

Mainly in “Shuhu-no-Tomo”, “Shukan Asahi” and “Bungei Shunju”

中野 洋 NAKANO Hiroshi

中川 美和 NAKAGAWA Miwa

102

---

世界の言語研究所(2) スタンフォード大学 CSLI (アメリカ合衆国)

116

加藤 安彦

第5回国立国語研究所国際シンポジウム報告

119

投稿規程・執筆要領

前号目次

編集委員会より／『日本語科学』1 正誤訂正

編集後記

## 投稿規程・執筆要領 (1997年10月現在)

### 1. 目的

本誌は、国立国語研究所における研究、ならびに国立国語研究所の研究活動と関連を有する研究の成果を公表することを通じて、広汎な日本語研究の発展に寄与しようとするものである。

### 2. 発行の時期

本誌は年2回(4月, 10月)発行する。(投稿の受付は随時)

### 3. 投稿資格

上記の目的に合致する内容の原稿であれば、投稿資格は問わない。

国立国語研究所の所員ならびに客員研究員, 非常勤研究員, 国語辞典編集調査員, 外国人招聘研究員, 地方研究員は、本誌への投稿資格を有する。また、その他編集委員会が適当と認めた研究者に対しても、原稿執筆の依頼あるいは投稿の勧誘をおこなう。

### 4. 原稿の内容と種類, 分量

投稿原稿は未刊行のものに限る。投稿原稿の種類と分量(題目, 氏名, キーワード, 要旨, 概要を含む)は以下のとおり。

研究論文: オリジナルな知見の提供を含む学術論文。(20ページ程度)

調査報告: 調査結果の記述を主とする報告。(20ページ程度)

研究ノート: 問題提起, 事例報告, 中間報告などの小論文。(10ページ程度)

この他、所内外の研究者に展望論文(研究動向, 現時点での課題, 将来の展望などについて論じた論文, 20ページ程度)の執筆を依頼することがある。

### 5. 原稿の書式

- 1) 原稿は日本語または英語で執筆する。ただし、例文等において中国漢字(簡体字・繁体字), ハングル, キリル文字, ギリシャ文字を用いることは可(それ以外の文字はローマ字化)。
- 2) 原稿はA4判横書き, 43字×36行で作成する。(編集委員会が認めた場合にかぎり縦書きも可。A4判縦置き, 30字×21行×2段。)英文の場合は半角86字×36行を目安に原稿を作成する。原稿はワープロを使用してできるだけ刷り上がり時のイメージに近い形で作成することが望ましい。
- 3) 研究論文及び調査報告には、**キーワード**(5つ以内), **要旨**(問題と結論の要約, 10行以内), **概要**(議論全体の概要, 1ページ以内)をつける。研究ノートには要旨とキーワードのみをつける。和文論文の場合、要旨・キーワードは日本語, 概要は英語を用いる(概要には英語のキーワードもつける)。英文論文の場合、要旨・キーワードは英語, 概要は日本語を用いる(概要には日本語のキーワードもつける)。英文のネイティブ・チェックは執筆者の責任においておこなう。
- 4) 注と文献は本文の後にまとめて示す。文献一覧の書式は以下のとおり。  
著者名(発表年)「論文タイトル」『書名/雑誌名』巻号(雑誌の場合)ページ 発行者

## 6. 査読

研究論文、調査報告、研究ノートは、編集委員会が依頼した2名の査読者が査読要領にもとづき審査し、採録の可否を決定する。著者の氏名は査読者に公開せず、査読者の氏名も著者に公開しない。査読者と著者との連絡（査読者から著者への照会や修正指示、著者から査読者への回答など）はすべて編集委員会を介しておこなう。

## 7. 投稿の手続き

投稿原稿は随時受けつける。投稿に際しては、「著者の氏名／所属／連絡先（共著の場合は代表者の連絡先）／原稿の種類（研究論文、調査報告、研究ノートの別）」を明記の上、原稿一式を編集委員会に送付する。投稿原稿は原則として返却しない。

## 8. 採録決定後の修正

採録決定後、体裁や書式について編集委員会から著者に修正を求める（あるいは編集委員会の判断で書式の細部を変更する）ことがある。査読者及び編集委員会から指示があった箇所を除き、採録決定後の改稿や修正は認めない。

## 9. 著作権

掲載された論文等の著作権（著作権法第27条、28条を含む）は国立国語研究所に帰属する。

原稿の送付、ならびに問い合わせは下記編集委員会まで。

〒115 東京都北区西が丘3-9-14 国立国語研究所 『日本語科学』編集委員会

E-mail : kagaku@kokken. go. jp Fax. 03-3906-3530(代表)

---

### 補足：文献一覧書式

宮島 達夫 (1972) 『国立国語研究所報告43 動詞の意味・用法の記述的研究』秀英出版

井上 優・生越 直樹 (1997) 「過去形の使用に関わる語用論的要因—日本語と朝鮮語の場合—」『日本語科学』1, 37-52, 国立国語研究所

BOLINGER, Dwight (1978) Yes-no questions are not alternative questions. H. Hiz (ed.) *Questions*. 87-105. Dordrecht: D. Reidel Publishing Company.

HUDSON, Richard (1975) The meaning of questions. *Language* 51. 1-31.

前号（『日本語科学』1）目次

創刊のことば	水谷 修
研究論文	
字体に生じる偶然の一致 —「JIS X0208」と他文献における字体の「暗合」と「衝突」—	笹原 宏之
連用形の時制指定について	三原 健一
過去形の使用に関わる語用論的要因—日本語と朝鮮語の場合—	井上 優 生越 直樹
調査報告	
Phonological characteristics of Japanese-derived borrowings in the Trukese of Micronesia	Shinji SANADA
オーストラリア・ビクトリア州の通訳サービスと日本語	平野 桂介
『東京語アクセント資料』と辞書アクセント —尾高型アクセントを事例とした資料評価—	相澤 正夫
雑誌九十種表記表の統計	宮島 達夫
研究ノート	
助動詞「ない」の連用中止法について	金沢 裕之
短 信	
「レキシコンにおける名詞」プロジェクトについて	ヨハナ・マティセン
その他	
世界の言語研究所(1) 国立国語研究院(韓国)	生越 直樹

## 編集委員会より

『日本語科学』では皆様からの投稿を歓迎します。

投稿は随時受け付けますが、一応の目安として、4月刊行の号については前年の12月末日、10月刊行の号については同じ年の6月末日までにご投稿いただければ幸いです。

12月末日／6月末日以降に投稿された論文でも、審査の進み具合によっては、4月／10月刊行の号にただちに掲載されることもありますので、投稿の際は原稿の内容や体裁について十分に吟味してください。

全体の分量の関係で審査を通過した論文のすべてを掲載できない場合は、受理日が早い論文から先に掲載し、掲載できなかった分は次の号に掲載します。

原稿執筆の際は『日本語科学』投稿規程・執筆要領(121-122ページ)をよくお読みください。(書式の詳細については『日本語科学』所収の論文を参照してください。)また、原稿はできるだけできあがりのイメージに近いものをお送りください。

以下の点には特に留意してください。

- 1) 要旨とキーワードを本文の前につけてください。
- 2) 参考文献の後に、著者の氏名(ふりがな)、所属、連絡先(住所、電子メールのアドレスなど)をつけてください。
- 3) 論文の最後の1ページは概要(タイトル、著者氏名、キーワードを含む。和文論文の場合は英語、英文論文の場合は日本語)にあててください。概要は、論文の内容が把握できるよう、要旨よりもくわしい内容にしてください。
- 4) 論文の分量は、タイトル、氏名・所属、要旨、キーワード、本文、概要の合計が規定の分量を大幅に超過することがないようにしてください。
- 5) 英文のネイティブ・チェックは著者の責任でおこなってください。
- 6) 図版の転載など著作権にかかわることがらは投稿の際に編集委員会までお知らせください。

---

### 『日本語科学』1 正誤訂正

P. 35 最終行 誤：h02239@sinet. ac. jp → 正：h02239@sinet. ad. jp

P. 113 最終行 誤：岡山市津島中3-1-1 → 正：岡山市津島中4-1-1



## 編集後記

第1号が世に出て一息つく間もなく、第2号の編集作業が始まった。年2回の発行には当初若干の危惧もあったが、何とか刊行にこぎつけることができた。

本号から巻頭随想を掲げることになり、鈴木孝夫先生にお願いしたところご快諾いただいた。厚くお礼申し上げます。また、今回も査読者の方々には多大なご協力をいただいた。心よりお礼申し上げます。

来年の末には国立国語研究所が満50歳の誕生日を迎える。『日本語科学』でも、創立50周年に関連して、展望論文の掲載などの企画を考えているところである。アイデア、ご要望等お聞かせいただければ幸いである。

次号以降の本誌の充実のために、今後も各方面からのできるだけ多くの投稿を待ち望んでいる。

### 編集委員

江川 清 (委員長, 国立国語研究所)  
井上 文子 (国立国語研究所)  
井上 優 (国立国語研究所)  
杉山 明子 (東京女子大学)  
鈴木 美都代 (国立国語研究所)  
宮島 達夫 (京都橘女子大学)

## 『日本語科学』2

平成9年10月

国立国語研究所

〒115 東京都北区西が丘3-9-14  
TEL.03-3900-3111(代表)

[本書の市販品発行所]

株式会社 国書刊行会

〒174 東京都板橋区志村2-10-5  
TEL.03-5970-7421